

どちらかという、林よりも谷津田での楽しみが多かった。林では、春にはワラビ採り、夏は「かぶと、くわがた虫」もいっぱいいた。秋には「あけび、栗」等の食べられるものもいっぱいあったし、きのこ採りも楽しかった。

「きのこ」といっても、「ハツタケ」しか知らなかった。赤や、白いきのこは、「みな毒きのこ」と思っていた。1時間ぐらい歩いて5～6本採れればよかった。採ったハツタケはススキに刺して持ち帰り、「きのこめし」をつくってもらった。香り、味もよくうまかった。

ハツタケ以外のきのこは食べたことがな

かった(たぶん)。「チタケそば」や「チタケごはん」もうまいが、今年は久しぶりにハツタケごはんを食べてみよう(採れれば)。

千葉県から栃木県へ移ったのが40年ほど前になるが、現在、私の生家は数年前に農業をやめた。周辺の平地林や、農地はほとんど消え、住宅地に変わっているようだ。谷津田はどうなってるかわからないが、ドローンでも使って見てみたいものだ。千葉県に入会して、「ハツタケ、アミタケ、ショウロ」が「房総のきのこ御三家」であることを知ったのです。



千葉のハツタケ



栃木のチタケ(チチタケ)



ススキとチダケサシ

籠などの入れ物の準備もなしに子供が林の中で見つけたきのこを壊さずに持ち帰るのはなかなか難しい。大畑さんの文章にはハツタケをススキに刺して持ち帰った思い出が記されている。これに関連する話でチダケサシという茎が硬い植物がある。名前の由来はチタケ(チチタケ)を刺して運んだことによると言われている。チチタケを好んで食料にした地域で使われた名前に違いない。ハツタケもチチタケも共にベニタケ科チチタケ属のきのこである。ベニタケ科のきのこの細胞はほとんど球形なのでポロポロ折れるため食感もあまりよくないと一般に言われている。ところがハツタケは千葉県で、チタケは栃木県でそれぞれ最も好まれるきのこであるから面白い。(文責：山本充弘、写真提供：吹春俊光)



チチアワタケとススキ



チチタケとチダケサシ